

プロフェッショナル・ディベロップメント & インクルーシブ・エクセレンスセンター(C-Hub)

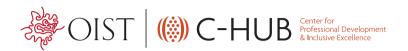


創刊報告書

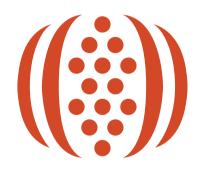
2021年12月~2023年2月



Okinawa Institute of Science and Technology 沖縄科学技術大学院大学



プロフェッショナル・ディベロップメント&インクルーシブ・エクセレンスセンター(C-Hub)



創刊報告書

2021年12月~2023年2月

C-Hub@oist.jp https://groups.oist.jp/c-hub 教員担当学監オフィス 沖縄科学技術大学院大学



目次

センター長よりご挨拶	1
C-Hub のミッションと概要······	2
C-Hub のメンバー紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
C-Hub の活動・サービス概要 C-Hub サービス利用者の内訳	
C-Hub サーヒス利用者の内訳	
プログラム、イベント、および活動の詳細	
教育・授業デザイン認定プログラム	
琉大 (琉球大学) ティーチング・フェロー・プログラム ····································	
日米科学コミュケーション&政策フェローシップ・ネットワーク	
ピア・メンタリング・サークル・プログラム	
セミナーとワークショップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
個別コンサルテーションとコーチング	16
多様性、公正性、インクルージョン (DEI) ····································	17
センターの刊行物、資料、およびプレゼンテーション	19
OIST コミュニティのためのリソース・文献	
学会でのプレゼンテーションと招待講演	20
連携、委員会、その他の活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
OIST の各ディビジョンおよびプログラムとの連携 ······	21
レビュー・編集協力 ····································	21
最優秀メンタリング教員賞	22
学外連携・参加状況	25

センター長より挨拶 C-Hub のミッションと概要

センター長よりご挨拶

この度、OIST プロフェッショナル・ディベロップメント&イ ンクルーシブ・エクセレンスセンター(C-Hub)での1年あま りの期間をまとめた創刊報告書を発行できる運びとなりまし た。OISTは大学の戦略計画で、教育指導とメンターシップ に関するファカルティ・ディベロップメント(FD)と、教員、 学生、研究員、スタッフ、事務職員と幹部、そして卒業生へ のキャリアサポートを提供する。集中的かつ単一の支援場所 を構築することを謳っており、C-Hub の設立はその計画を 実現する重要な成果でした。私たちのプログラムや活動は教 育・授業デザイン、多様性・公正性・インクルージョン (DEI)、 メンターシップとリーダーシップ、研究スキル、コミュニケー ションと連携、生涯にわたり役立つスキルなど、幅広い領域 に広がっています。C-Hub のミッションとビジョンは、OIST の学術や研究の卓越性を追求する価値観や大志と、地域社 会や国際社会の幸福に貢献するという果敢なコミットメント を反映しています。私たちは、日本や世界各地の高等教育に おけるプロフェッショナル・ディベロップメントセンターの中 でも、非常にユニークで革新的な組織として開設しました。 私たちのアプローチは、誰もが活躍し成功するための力を得 られるような、公正性とインクルージョンの風土を培うことを 基盤としています。

初年度の C-Hub は OIST コミュニティ全体において、そして クルーシブ・メンタリング (2022) やインクルーシブ・リーダー さらに国内外でもパートナーとの連携を促進させることがで きました。私たちのプログラム、活動、およびサービスに参 加した教員、学生、ポスドク、研究員、事務職員および幹 部、卒業生、外部関係者からの参加者の合計は、わずか一 年あまりの間に 1,403 人に上りました。これは私たちのよう な小さなチームとしては特筆すべき成果です。教育・授業デ ザインに関する認定プログラムには40人を超える参加者(学 生、ポスドク研究員、教員)が参加し、毎月開催されたワー クショップでは純粋な探求心や、インクルーシブな教育法、 そして OIST の多様なコミュニティに下支えされた活発な議 論が行われていました。また、月刊ニュースレター「C-Hub

C-Hub のミッションとビジョンは、 OISTの学術や研究の卓越性を 追求する価値観や大志と、地域 社会や国際社会の幸福に貢献 するという果敢なコミットメントを 反映しています。

Spotlight!も創刊し、OISTコミュニティにとって関心の高い テーマ(インクルーシブ・リーダーシップ、効果的なコミュニケー ション、インクルーシブ・メンタリング、メンタルヘルスとウェ ルビーイングなど)や成功事例・最善策を裏付ける研究など を紹介しています。

C-Hub は多様性、公正性、およびインクルージョンをプログ ラム全体に組み込むことに一貫して重点を置いています。イン シップ (2023) に関する国際シンポジウムには、OISTや日 本国内外から250名を超える参加者が集まりました。

本報告書では、私たちのプログラムや活動に関する詳細説 明をご覧いただけます。私たちは今回ご紹介している取組 をさらに強固なものにするべく、今後も活動を続けて参りま す。当初から熱意を持ってこの取り組みにコミットしてくれた C-Hub のメンバーや、継続的に支援を提供し、連携し続けて くれた教員担当学監オフィスの皆様に感謝致します。加えて、 OISTの幹部、教員、学生、研究員、および職員の皆様の積 極的な支援とパートナーシップにも深く感謝を申し上げます。

Xuthy & Tabyan

キャシー・タカヤマ (博士)

1

エグゼクティブ・ディレクター(プロフェッショナル・ディベロップメント&ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン担当)

C-Hubのミッションと概要

プロフェッショナル・ディベロップメント&インクルーシブ・エクセレンスセンター(C-Hub)では、以下の集中的かつ戦略的な能 カ開発・人材育成に関する取り組みを通じて OIST コミュニティ全体を強化することを目指しています。

- i. 教員、学生、ポスドク研究員、事務職員、研究スタッフ、および幹部を対象とした、研究結果に基づいた。 プロフェッショナル・ディベロップメントプログラムやメンターシップ、キャリア、個人的成長などの機会の提供
- ii. 多様かつ公正でインクルーシブな環境を積極的に培うことによる優れた学術と研究の発展支援
- iii. 大学内外での連携とコラボレーションの創出
- iv. 公正性、多様性、インクルージョンを取り入れたユニークなプロフェッショナル・ディベロップメントモデル を通じて、OIST による能力開発・人材育成分野への貢献を高めるために、データ、成果、成功事例や 最善策の共有、およびベンチマーキングを行うフォーラムの設置

プロフェッショナル・ディベロップメント&インクルーシブ・ エクセレンスセンターのロゴは、沖縄の植物であるサンニン (ムーチーガーサー。和名は月桃)という植物の種子殻 からインスピレーションを得ています。サンニン の種子は鮮やかなオレンジ色の殻に包まれて います。サンニンは沖縄の伝統料理にも 使われます。

このロゴはサンニンの種子殻に包まれてい る一つ一つの種子、一人一人の可能性を表し ています。しかし、種子が成長し花を咲かせるた めには、水や栄養を与えて育てる必要があります。C-Hub では、この精神に基づき、コミュニティを束ね、すべての 人の持続的な成長のためのインクルーシブで成果を出しや すい環境を作り出すことを目指しています。そうすることで、

私たちの国際的なコミュニティ全体において未来の世代の 成長を育むことができるのです。

> 私たちは、C-Hubのロゴへの着想を与えてくだ さった OIST の Eedee* (エーデー) グルー プの連携と實大な指導に感謝いたします。 Eedee* グループは、地元のことばや芸能・ 風習を学内に積極的に取り入れる活動を 行っています。地域社会の一員である OIST メンバーが、沖縄・恩納村について学び、考 えるきっかけ作りを牽引しています。

*Eedeeとは、沖縄県恩納集落の言葉で「協力する、共働 する」という意味です。



C-Hub のメンバー紹介

C-Hubのメンバー紹介



エグゼクティブディレクター (プロフェッショナル・ディベロップメント&ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン担当)

キャシー・タカヤマ Ph.D. (Kathy Takayama)

タカヤマは 25 年以上にもわたり、世界各地の大学で魅力的かつインクルーシブで生産的な学術環境を開発するためのイノベーションを生み出し、リードしてきた経験を持っています。タカヤマの業績はカーネギー教育振興財団、全米研究評議会の全米アカデミー・フェローシップ、そして 2014 年度から 2015 年度にかけて同氏を会長に選出した International Society for the Scholarship of Teaching and Learning/国際教育学習研究学会(仮称)により評価されています。

タカヤマは Australian College of Educators 賞、オースト ラリア微生物学協会の David White 賞など、国内外で教育 賞を受賞しています。また、STEM 教育、高等教育における 技術とイノベーション、教育と学習の研究、そして多様性、公 正性、インクルージョン(DEI)について、数々の基調講演を 行っています。マサチューセッツ工科大学 (MIT) の卒業生で あるタカヤマは、シドニーにあるニューサウスウェールズ大学 の教員として、海洋性細菌であるビブリオ属における RNA 処 理機構の分子制御に関する研究に携わりました。その後、米 国ブラウン大学の分子生物学・細胞生物学・生化学の教授と、 同大学のハリエット・W・シェリダン・センターのエグゼクティブ・ ディレクターに就任し、ブラウン大学の後はコロンビア大学 の教育・学習センターの初代エグゼクティブ・ディレクターも 務め、生物科学の教授も兼任しました。2017年には Senior Fellow in Science Education としてハワード・ヒューズ 医学 研究所に招待され、科学におけるインクルーシブで公正なキャ リアパスを創出するための National Inclusive Excellence initiative に取り組みました。

C-Hub の初代エグゼクティブ・ディレクターとして、タカヤマは、センターおよび OIST の様々な部門とのパートナーシップの下、教育学と授業デザイン、キャリア開発、DEI (多様性、

公正性、インクルージョン)、メンターシップおよびリーダーシップ、ならびに連携とコミュニケーションに関するプログラム、サービス、およびプロジェクトの戦略と開発を主導しています。また、DEIのエグゼクティブ・ディレクターとして、タカヤマはOISTでDEIの促進と支援、ならびにDEIを維持するために必要なインフラの開発に向けた戦略的リーダーシップの役割を果たしています。この役割において、タカヤマは、すべてのメンバーが評価され、活躍する機会が提供される公正でインクルーシブな環境を創出するための組織的な能力開発・人材育成を主導しています。これらの重要な役割に加えて、さらにOISTアラムナイ&アソシエイツネットワーク(OAAN)イニシアチブの会長も務め、OISTの学術・研究ミッションを支援するためにOIST幹部、代議員会、ORC(OIST Researchers Community:研究員コミュニティ)、学生自治会の各幹部、ディビジョン、およびユニットと連携しています。

タカヤマは米国ニューヨークシティ出身ですが(ベーグルが恋しいそうです)、一番気に入っている州はロードアイランド州です。キャリアの半分をオーストラリアのシドニーで過ごし、同地ではティムタムやラミントンの味を覚えました(残念ながら、クリケットのルールは未だに覚えることができていません)。





プロフェッショナル&カルチャーデベロップメント・スペシャリスト **永井 あゆみ**

グローバル金融機関の東京やアジア太平洋地域拠点で10年 以上の人事経験を持つ永井は、国際的かつ多文化環境におけるプロフェッショナルのための人材開発に特化しています。 キャリアを学界に移した永井は、今までの経験を活かして OISTのインクルーシブで公正な文化を充実させることに向けて、OISTコミュニティの多様なメンバー間での交流を促進させる場と機会づくりに励んでいます。また、特に事務職員の

プロフェッショナル・ディベロップメントに関するニーズを支援するために大学全体で幅広く活動し、C-Hub内で同僚と連携してディビジョン横断的なプログラムやイニシアチブの開発にも取り組んでいます。京都出身の永井は沖縄にルーツを持ち、余暇には旅行、読書、料理、家族や友人とのアウトドア活動などを楽しんでいます。



教員・ポストドクトラル・プロフェッショナル・ディベロップメント・アシスタント・ディレクター
ブランドン・コンロンEd.D (Brandon Conlon)

コンロンはマサチューセッツ大学アマースト校で言語学と哲学の学士号を取得し、リバプール大学と中国の西安交通大学との合弁大学パートナーシップの下で講師として勤務する傍ら応用言語学の修士号を取得しました。昨年まで、ニューヨーク州バッファローにある、歴史的に女子大学であり現在は応用健康科学の専門大学であるデュービル大学で教育革新センター(Center for Teaching Innovation)のセンター長を務めていました。その前は、ニューヨーク大学と華東師範大学および上海市政府とのパートナーシップである合弁大学キャンパスであるNYU上海でEnglish for Academic Purposeプログラムの責任者と上級講師を兼任していました。NYU上海では、創設当時からの教員として2013年から同校に着任していました。また、国際的な高等教育環境で20年近くにわたる豊富な教育経験を有しています。

コンロンはリバプール大学から高等教育の Ed.D. を取得しており、同大学では NYU 上海における中国人学生たちによるリベラルアーツ教育の概念化を研究していました。彼のプロフェッショナル・ディベロップメントに対する関心は、異なる

ステークホルダーがそれぞれの自己開発を追求する一方で組織の全体的な学習に貢献する方法、中でも組織のミッションや価値観に関連した組織的アイデンティティのダイナミクスへの注目から始まっています。また、現在リベラルアーツカレッジ太平洋連合(Pacific Alliance of Liberal Arts Colleges)とパートナーシップを提携しているウェブサイト「Liberal Arts Global Lens」の初代編集者でもあります。さらに、PODネットワーク(Professional and Organizational Development Network)、Human Development and Capabilities Association、World Council on Intercultural and Global Competence の一員でもあります。

た。また、国際的な高等教育環境で 20 年近くにわたる豊富 OIST では、エグゼクティブ・ディレクターとともに教員やポな教育経験を有しています。 スドク研究員のプロフェッショナル・ディベロップメントに関するニーズの調査を行い、研修カリキュラムの開発と、調査コンロンはリバプール大学から高等教育の Ed.D. を取得して 結果により特定したニーズに関連したコンサルテーションをおり、同大学では NYU ト海における中国人学生たちによる 担当します。

 $\mathbf{3}$

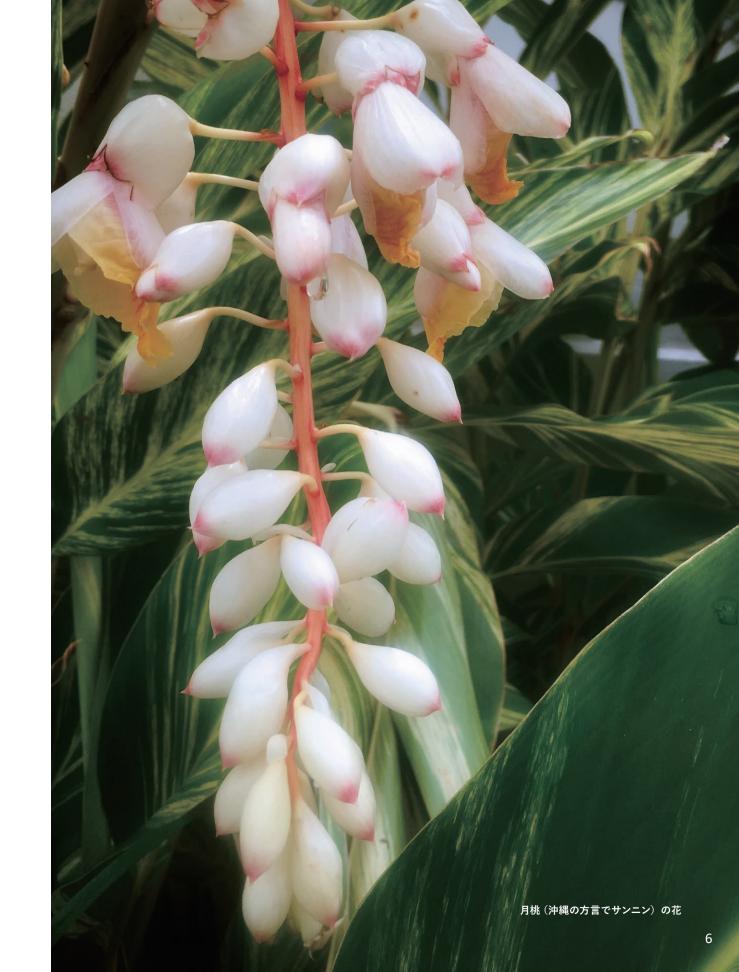
C-Hub のメンバー紹介



事務職員アシスタント オクサナ・ブルドゥジャン (Oksana Burduzhan)

ブルドゥジャンは、これまでにウクライナとイギリスで企業会わたる役割を担っています。ブルドゥジャンは新しい繋がりを 計を経験し、2019 年から OIST にて勤務しています。大学で 作り人々が協働・協力できるように支援することが大好きで、 は経済学を専攻し、また芸術に対して大きな情熱を抱いていポジティビティの可能性や創造的プロジェクトの美しさを大 ます。家族とともに沖縄へ移住した際、自身の専門スキルを切にしています。芸術的な直観に恵まれているおかげで、 伸ばすべく、OISTの教員担当学監オフィスのポスドク・キャリ OISTコミュニティの芸術的・科学的才能を沖縄のコミュニ ア開発支援セクションで当初幅広い事務的な支援を経験した ティや海外からの訪問者に紹介する OIST の第一回コミュニ 後、C-Hub へ異動しました。現在は、C-Hub のプロフェッショ ティ・アート展示会「Synergy」のキュレーターを務めました。 ナル・ディベロップメント活動に関する総合支援からエグゼク ブルドゥジャンは沖縄をこよなく愛し、ほとんどの週末を海で ティブ・ディレクターの事務支援、世界各地の OIST 関係者を 過ごすか、芸術関連の活動に関わっています。 つなげる OIST アラムナイ&アソシエイツネットワーク (OAAN) の発展を支援するための OIST 全体での調整役など、多岐に





C-Hub の活動・サービス概要

C-Hubの活動・サービス概要

C-Hubサービス利用者の内訳

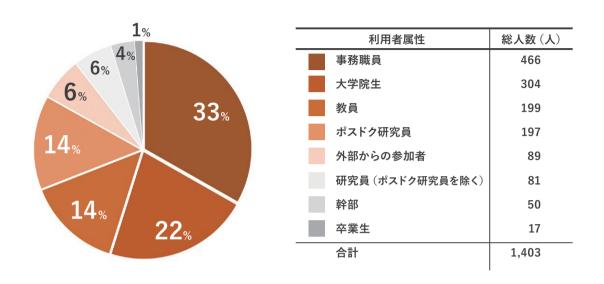


945人のOISTersがC-Hub のプログラムやイベントに参加

255人のOISTersがC-Hubによるコンサルテーションやコーチングを利用 (OISTers = OIST 関係者)

7月 2月 年次教員リトリート刷新 (リトリート=意見交換と議論の場) インクルーシブ・ ピア・メンタリング・サークル・ メンタリング・ プログラムの発足 シンポジウム 日米科学コミュニケーション& 政策フェローシップ・ ネットワーク発足 12月 4月 琉大ティーチング・ フェロー・ C-Hub 活動開始 プログラムの発足

C-Hub利用者属性 (2021年12月~2023年2月)





2021) 2022) 2023

C-Hub の活動・サービス概要 プログラム、イベント、および活動の詳細

C-Hubのプログラムおよびイベントの一覧

認定プログラム

教育・授業デザイン認定プログラム

フェローシップ・プログラム

琉大ティーチング・フェロー・プログラム 日米科学コミュニケーション&政策フェローシップ・ネットワーク・プログラム

教員プログラム

新任教員オリエンテーション 年次教員リトリート

年次国際シンポジウム

シンポジウム2022: インクルーシブ・メンターシップ シンポジウム2023: インクルーシブ・リーダーシップ

ワークショップ、セミナー、およびその他のプログラム

ピア・メンタリング・サークル・プログラム

教員、ポスドク研究員、および学生のためのワークショップやセミナー

- ・ C-Hub / 研究担当ディーンオフィスによる科研費クリニック
- Nature Research Academies:効果的な査読者になるためのワークショップ
- ・次の授業を構築する:逆転発想の授業デザインによる先進的なカリキュラムづくり

全学共通ワークショップ

- ・ マイクロアグレッション・ワークショップ
- ・ 効果的で素晴らしいポスター発表のためのワークショップ
- 伝わるビジュアルデザイン

リトリートと戦略的計画立案のファシリテーション (リトリート=意見交換と議論の場)

OneHR ワークショップ (人事ディビジョンのリトリート)

研究科オフィスのリトリート

研究担当ディーンオフィス・戦略的計画立案リトリート

研修セッションと活動

C-Hubフォーカスグループ(意見収集のための座談会)

教員選考委員会:無意識の偏見に関する研修 研究科オフィス:無意識の偏見に関する研修

教員:無意識の偏見に関する研修(大学院入試向け)

大学院生:責任ある研究実施に関する研修

プログラム、イベント、および活動の詳細

教育・授業デザイン認定プログラム



https://groups.oist.jp/c-hub/c-hub-teaching-and-course-design-certificate-program-fall-2022-%E2%80%93-spring-2023

注:アクセス先のウェブサイトは英語のみ

「グループ・ディスカッションは、異なる分野の人たちが持っている違う視点を知るという意味で、とても役に立ちました。また、まったく異なる分野でも、教育・学習に関する共通の苦労があることを知るのも興味深いことでした。こういったインプットはすべて、今後の教育やセミナーでの講演の準備に役立つと思います。」- プログラム参加者

「授業における徹底した準備や、貴重な知識をたくさん共有してくださりありがとうございました。また、クラスの雰囲気についても触れておきたいと思います。いつもちゃんと自分の話を聞いてもらえた気がしましたし、私の(そして皆さんの)視点やコメントは、クラス全体の学習過程の重要な一部であるように思えました。」-プログラム参加者

基本要素について学びます。このプログラムは、参加者がそれぞれの教育学的スキルを高め、魅力的で質の高い授業を生み出すための成功事例や最善策を応用する上で役立つよう設計されています。また、参加者は、修辞学的なレンズを用いてどのようなキャリアにも欠かせないコミュニケーションスキルも磨きます。

参加者44名 教員1名 ポスドク研究員18名 学生25名





モジュールは以下のとおりです:

- ・ 教育実践の振り返りとインクルーシブな学習環境の構築
- 修辞学的な実践:効果的なコミュニケーション
- ・ 授業およびシラバスのデザイン



プログラム、イベント、および活動の詳細 プログラム、イベント、および活動の詳細

琉大(琉球大学)ティーチング・フェロー・プログラム

琉大ティーチング・フェロー・プログラムでは、OIST 所属の フェローは C-Hub の教育・授業デザイン認定プログラムを通 ポスドク研究員が「医学外国語」の授業を琉球大学医学部の 2年生に教えています。フェローには、「医学外国語」の会話 スキルの授業を自らデザインして教える機会が与えられます。

じて訓練を受け、エグゼクティブ・ディレクターのタカヤマと 琉大医学研究科の教授陣がメンターシップを提供します。

2022 年度琉大ティーチング・フェロー (OIST ポスドク研究員)



レア・ピカール 細胞シグナルユニット



サンドラ・デ・ラ・フエンテ・ルイス ヌルハナニ・ビンティ・ラザリ 分子神経科学ユニット



時生物学フェット



事業開発セクション

日米科学コミュケーション&政策フェローシップ・ネットワーク

日米の科学者をつなげる「科学コミュニケーション&政策フェ ローシップ・ネットワークプログラム」は、科学者が自らの研 究や発見を科学政策の発展に向けて、効果的かつ戦略的に 伝えることができるよう訓練するプログラムです。プログラム では、日米の若手科学者を集め、政策立案者との戦略的な 連携に向けた効果的なコミュニケーションのための二国間研 修や交流を行っています。日本財団の財政的支援を受けて実 現したこのプログラムは、科学と政策の間のギャップをうめ

る橋渡しをすることで、両国によるグローバルな課題に対す る有意義な協力関係を促進させます。

選出されたフェローは、一年間にわたる同期生との学びあいを 基盤としたプログラムを通して、科学的根拠のある政策を多く の人に伝える訓練を受けました。プログラムはエグゼクティブ・ ディレクターのタカヤマとカリフォルニア大学リバーサイド校名 誉教授のスーザン・ハックウッド博士が共同で実施しました。

2022 年度 日米科学コミュケーション&政策フェロー



モハメド・"モー"・アトワ 量子物質科学ユニット 大学院生



ルヴィ・レカンワサム 量子マシンユニット ポスドク研究員



マイルズ・デスフォルジェ 神経計算ユニット 大学院生



大鳥 アチュクバシュ アイシェ 遥 海洋気候変動ユニット 大学院生



流体力学ユニット 大学院生



ジャミラ・ロドリゲス 海洋気候変動ユニット ポスドク研究員



マイケル・イズミヤマ 海洋気候変動ユニット 大学院生



甲畑 真紀 海洋生態物理学ユニット 大学院生

教員プログラム

新任教員オリエンテーション

教員担当学監オフィス (FAO) と C-Hub エグゼクティブ・ディ でのキャリア全般を通じた支援の概要も説明します。参加教 レクターのタカヤマが主催し、新仟の教員を歓迎するととも にオンボーディング(=組織により早くなじみ、円滑な研究・ 教育活動開始のための支援)研修を行います。また、OIST

員は新しい同僚と出会い、自身の研究ユニットの構築、教育、 メンタリングに関する重要な要素について学ぶ機会を得ます。

年次教員リトリート (リトリート=意見交換と議論の場)





2022年 テーマ:研究室の生産性

教員らは、研究室での生産性に関連する課題、アイデア、戦 略について共有し、議論を交わしました。効果的な研究室運 営、成果の出せるチーム作り、コミュニケーション、リーダー シップのスタイル、インクルーシブなメンターシップ(人材 育成・指導)、そして生産的で活気に満ちた研究チームを培う ための参考事例や最善策を共同で概説しました。

参加者:16名

2023年 テーマ:学際的なパートナーシップ

増加しつつある OIST の教員は、普段交流のないユニットが 進めている研究について学び、学際的なパートナーシップや コラボレーションに向けて潜在的に連携できる領域、設備の 共有、学際的なポスドク研究員の共同での受け入れ、ワーク ショップの提案などについて議論しました。リトリートでは教 員間のつながりが強化され、将来の連携に向けた機会の種 が蒔かれました。

参加者:28 名







プログラム、イベント、および活動の詳細 プログラム、イベント、および活動の詳細

C-Hub年次シンポジウム

C-Hub の年次シンポジウムは、センター開設後すぐに企画 されました。この企画の背景には、OIST全体でのディスカッ ションやフォーカスグループ(座談会)から、繰り返し『大 学のすべてのメンバーにとって重要なテーマの探求について、 コミュニティで論議する場 | の必要性が浮かび上がってきた ためでした。事前調査の対話の中ではメンターシップ(人材

育成・指導力)が頻繁に挙げられ、OISTコミュニティから のインプットが OIST や国内外から教員、学生、研究員、職 員、リーダーを集め、複数の観点、経験、および組織的文 脈から成功事例、アイデア、および課題を共有し議論するた めの第一回シンポジウムを開催するきっかけとなりました。

2022年度:インクルーシブ・メンタリング(オンライン)

https://groups.oist.jp/c-hub/event/inclusive-mentoring-mini-symposium-2022

効果的なメンターシップ(人材育成・指導)の関係性は、コミュ ニケーションとインクルーシブな風土、共感力、および相互 尊重の醸成があってこそ成り立つと種々の研究により実証され ています。C-Hub の第一回シンポジウムではテーマを「インク ルーシブ・メンタリング|とし、多様な参加者がメンターシッ プに関する様々な側面についてそれぞれの経験や得られた教 訓、洞察などを共有しました。





2023年度:インクルーシブ・リーダーシップ

https://groups.oist.jp/c-hub/event/inclusive-leadership-symposium-2023

国際社会と組織レベルで、様々な変化に人々が直面している 昨今、インクルーシブ・リーダーシップという資質が非常に重 要になっています。これから私たちは、どのように変化に適 応する力や、互いに励まし本来の力を発揮するための後押し、 協力連携する力、そしてコミュニティ内での強固な帰属意識を 更にたかめる組織文化・風土を創りだしていけるのでしょう。 このシンポジウムでは、私たちの組織の様々な場面においてイ ンクルーシブ・リーダーシップの資質をどのように発揮できる かを探りました。日本や世界各地から集まった参加者は、全 てのメンバーが活躍でき、各々の貢献の意義を見出せる組織 文化の醸成について、またインクルージョンと公正性を積極的 に促進させるため、すべての局面でリーダーたちに当事者意識

を持たせ、浸透させていくには、そして、偏見により矮小化さ れているグループや、少数派とされるグループに属する人々が、 本来もつリーダーとしての可能性を発揮するための後押しにつ いて議論・探究し、戦略的思考に取り組みました。



「このイベントでは、みんながとてもポジティブで協力的な雰囲気が作り上げられていました。素晴らしかったです!」 「イベントは大成功でした。OIST での今後のイベントも楽しみにしています。」

「このようなイベントは、OIST でのプロフェッショナル・ディベロップメントを望むメンバーにとってとても素晴らしい機会だ と思います。」

「このようなイベントがもっとあれば!今日のこのコミュニティや会話をもっと深めたいです。」 - イベント参加者

ピア・メンタリング・サークル・プログラム

https://groups.oist.jp/c-hub/peer-mentoring-circles



ピア・メンタリング・サークル (PMC) は定期的に集う同僚・ ピアグループにより構成され、目標に向かうための戦略やリ ソースを共有・議論しあう場です。このサークルでは、お互い にメンタリングし合い、学び合うために同僚が支え合うコミュ ニティを築き、全員がプロフェッショナルとしての経験、課題、 関心事、目標を話し合う場です。

種々の研究から、ピア・メンタリングが最も生産的なメンタリ ングの実践方法であり、長期的なインパクトをもたらす方法で あることが示されています。このメンタリング形式では、メンバー は多様なプロフェッショナルまたは個人的な体験、専門性、背 景をもつ強固な人的ネットワークを築くことができます。また、 PMC は強いコミュニティ意識を確立し、そのメンバーはキャリ アを通じて様々な場面でお互いをサポートし続けます。

また、ピア・メンタリングの有効性は(先述の) インクルーシ ブ・メンタリング・シンポジウム全体を通じて、基調講演者、 教員や学生のパネリスト、セッション中のディスカッションな どにより、繰り返し強調されました。

C-Hub のピア・メンタリング・サークルは毎月開催され、グ ループにとって特に関心のあるテーマについて経験やアイデ アを共有するとともに、お互いにとってメンターとなる同僚グ ループとして機能しています。C-Hub のエグゼクティブ・ディ レクターのタカヤマが当初のオリエンテーション・ミーティン グの進行役を務め、グループの目標や計画設定を支援し参考 事例等のガイドラインを提供しました。

「私にとって、[ピア・メンタリング・サークル・プログラムは] OIST で得られた最も充実した経験でした。」

- 参加した大学院生

セミナーとワークショップ

C-Hub では、教員、ポスドク研究員、大学院生、研究及び事務職員を対象に、一年間を通じて様々なワークショップやセミナー を開催しました。

次の授業を構築する:逆転発想の授業デザインによる先進的なカリキュラムづくり

(ゲスト講師:ハーバード大学医学大学院ジェイソン・ヒュースティス博士)

本ワークショップでは、参加者が優れたカリキュラムの要素 ラムに沿った授業の目標を批評・策定し、「形成的」「総括的」 を特定し、それらを明瞭に表現できるようになりました。シ 評価の概念を新しいカリキュラムに効果的に統合して、学生 ラバスのサンプルを批評し、優れたカリキュラムの基準と比の学習を促進する方法を概説しました。 較した場合の長所と短所を明らかにし、自分たちのカリキュ

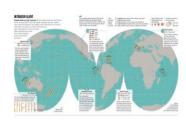
プログラム、イベント、および活動の詳細 プログラム、イベント、および活動の詳細

伝わるビジュアルデザイン

(ゲスト講師:ジャーナリスト兼データ・ビジュアライゼーション・デザイナーのケイティ・ピーク博士)

は、ピーク博士が印刷物やプレゼンテーの例に触れ、読み手を惹きつけ、見てもら ションにおける優れたビジュアライゼー いたいものに注意を向けさせるために機 ションデザインの基本や、視覚的に印象 能するデザインの原則を学びました。ま 付けるための戦略について紹介しました。た、データ/情報ビジュアライゼーション 参加者は、ビジュアライゼーションを通 の分野に関する重要な面について学ぶた じて重要なメッセージを効果的に伝えるめに役立つ資料も配られました。

このインタラクティブなワークショップで 方法を学び、チャートやグラフィックの



Nature Research Academies:効果的な査読者になるためのワークショップ

このインタラクティブなオンライン・ワークショップの参加者は、編集者と著者の双方の観点から、効果的な査読者になるために 必要なスキル、実践的な洞察、および戦略について学びました。

C-Hubと研究担当ディーンオフィスによる科研費クリニック(クリニック=課題解決型ワークショップ)

エグゼクティブ・ディレクターのタカヤマがファシリテーター 過去最多となる 38 名の教員が、合計 48 件の応募を行いまし した教員によるアドバイスや指導が行われ、参加者は申請の 準備原稿について他の受講生やワークショップのメンターから フィードバックを受けました。

このクリニックでは、佐瀬英俊先生、清光智美先生、 ティモシー・ラバシ先生、ニコラス・ラスカム先生がメンター を務めました。

を務めたこれらのクリニックでは、近年科研費の申請に成功 た。今回のワークショップに参加しなかった応募者の間での 成功率が31%であったのに対し、科研費クリニックに出席し た応募者の間では成功率 72% を記録しました。



効果的で素晴らしいポスター発表のためのワークショップ

エグゼクティブ・ディレクターのタカヤマが講師を務めたこの者に説明しました。ポスター発表はインタラクティブであり、 て重要なスキルである、インパクトのあるアイデアを視覚的に 伝え、聞き手を惹きつけるポスター発表の方法について参加

ワークショップでは、科学者のみならずすべての発表者にとっ 研究の紹介やアイデア、プログラム、およびプロジェクトの共 有に効果的な形式です。

キャリア・トーク:日本での半導体業界への就職

(ゲスト講師:元 OIST ポスドク研究員のミカス・レメイカ博士)

この講演では元 OIST ポスドク研究員のミカス・ のアドバイスを共有しました。レメイカ博士は 経済的にもやりがいのある仕事を見つけるため明しました。

レメイカ博士が、外国人として日本で産業界に今回のセミナーにおいて、(自分の職場である) 就職するという個人的体験を中心に紹介しまし ASM インターナショナルでの雇用機会を紹介 た。また、日本の半導体企業への応募や面接し、新たな博士課程修了者の公募や、広島で のプロセスについても説明し、知的で充実したのプロセスエンジニアの募集などについても説



個別コンサルテーションとコーチング

センターでは、様々なテーマについて相談を受け付けています。

- ・ 多様性、公正性、インクルージョン
- ・ 授業デザインやシラバスの作成
- ・ 教育学的・教授法に関する成功事例・最善策
- オンライン授業のデザインとオンライン・ティーチング
- 授業観察とフィードバック
- キャリア相談
- コミュニケーション、プレゼンテーション、および面接のスキル
- サイエンスライティング
- ・ 履歴書・レジュメ(学術界および産業界への求人市場向け)
- ・ 学術的な就職活動に向けた教育指導実績や教育哲学の文書化 (ティーチング・ポートフォリオ、ティーチング・ステートメント、ティーチング・フィロソフィー・ステートメント)
- ・ ダイバーシティ・ステートメント
- ・ 助成金申請書の書き方

「とても為になるフィードバックセッションで、自分の応募書類の長所と短所をより深く理解することができました。また、キャ シーさんは就職活動のあらゆる面において丁寧に助言を下さり、本当に知識が豊富で頼りになると感じました。特に、【教 育】と【多様性】については、私はどちらもあまり経験がないため、詳細なアドバイスをもらいました。キャシーさんの助 言によって、表面的なだけの応募書類ではなく、自分の考えを誠実かつ真摯に書き表すことができ、将来の就職における 書類作成においても今回の経験が役立つと感じました。就職用の応募書類作成について、C-Hub に相談できて本当に助 かったといろんな人に話しているんですよ。」 - ポスドク研究員からのフィードバック

ています。

人の才能や一人一人の自然な考え方、感じ方、行動を意図 考える機会を得ることができます。 的に観察することで、私たちは初めて一人一人の独自性を

C-Hub では、ギャラップ社のクリフトンストレングスオンライ 理解できます。ギャラップ社の調査によると、クリフトンスト ンテストを活用した個々の強みに基づく能力開発メソッドをレングスを活用する機会がある人は毎日自分のベストを尽く 通じて OIST のメンバーやチームを支援するため、認定コー すチャンスがあると回答する確率が 6 倍、非常に高い生活の チの永井主導により個人およびチームのコーチングを提供し 質(QOL)を享受できていると報告する確率が3倍に上って います。認定コーチ永井の支援のもと、参加者は各自の強み を職場やキャリアの目標に沿うように設計・実践する方法を

C-Hub の創設期間中

2月) に実施した OIST

コミュニティ・メンバー

ングセッションの件数

の個人相談またはコーチ

(2021年12月~2023年





クリフトンストレングス ギャラップ社の調査



多様性、公正性、インクルージョン(DEI) 多様性、公正性、インクルージョン(DEI)

多様性、公正性、インクルージョン(DEI)

C-Hub では創設以来、センターのプログラム、イベント、および なセンターの新しいモデルを確立しており、その実践、方針、 相談内容のすべてにおいて多様性、公正性、およびインクルー ジョン(DEI) を浸透させていくことを重要視し続けてきまし ジウム(2022年)とインクルーシブ・リーダーシップ・シンポ ジウム (2023 年) には、OIST や日本ならびに世界各地から 支援、教員養成、学生やポスドク研究員のキャリア開発、研 究員、事務職員、および幹部の専門的研修を提供する独特

プログラムは常に DEI の立場から開発されています。イノベー ション、創造性、および卓越性の実現には、あらゆる分野に た。私たちが開催したインクルーシブ・メンタリング・シンポーカたる研究者、教育者、および職員の多様化と育成を進める 能力向上が成功の鍵を握っています。研究機関がこの点で成 功するためには、すべてのメンバーが、インクルーシブかつ公 250 名を超える参加者が集まりました。私たちは教育・学習 正であり、誰もが活躍できるような環境を培う責任を負わな ければなりません。

C-Hub が一年余りで DEI に与えたインパクトは、以下のような活動によって裏付けられています:

ワークショップおよびイベント

- OIST 教員選考委員会、テニュア審査委員会、昇進審査委員会を対象とした無意識の偏見に関する研修(タカヤマ)
- ・ OIST マイクロアグレッション・ワークショップ研修(タカヤマ)
- ・ 責任ある研究実施に関する研修 (無意識の偏見、マイクロ/マクロアグレッション、インクルーシブな研究風土の 醸成、インクルーシブなコミュニケーションに関する議論を含む)(タカヤマ)
- ・ インクルーシブ・メンタリング・シンポジウム 2022
- ・ インクルーシブ・リーダーシップ・シンポジウム 2023
- Diversity in Science ワークショップ OIST サイエンスチャレンジ 2023
- ・ 日本と沖縄のジェンダー平等:グローバルな視点は長い道のりをどう縮めるか? 招聘講義:琉球大学 国際地域総合学部教授 ジェンダー協働推進室長 喜納育江 博士

委員会及び外部活動

- OIST 男女共同参画委員会 (タカヤマ)
- ・ 2022 年度教員採用戦略ワーキンググループ 「ベストプラクティスに関する分科委員会」委員長(仮称)(タカヤマ)
- ・ BRIDGE ジェンダー・公正性・多様性・インクルージョンネットワーク・コンソーシアム 持続可能な教育開発の 取り組み (BRIDGE GEDI-SEDI) (仮称) (タカヤマ)

Diversity in Science ワークショップ – OIST サイエンスチャレンジ 2023

OIST では、25 名の国内の学部生と修士課程の大学院生を 探求し議論する機会です。OIST の独特な文化と多様なメン キャンパスに迎え、一週間にわたる学校紹介ワークショップに バー構成は、このような議論を行うために、最適な環境を提 参加してもらいました。これは OIST の博士課程プログラムに 供することができます。 Diversity in Science ワークショップ ついて知ってもらうとともに、OISTの活気あふれる研究・学では、エグゼクティブ・ディレクターのタカヤマによる指導の下、 術環境を体感してもらうことを目的としたワークショップです。 学生たちが自らの様々な経歴や経験を、科学や学術界におけ 本ワークショップの重要な要素の一つが、科学における多様 性、公正性、およびインクルージョン(DEI) について学生が 供しました。

る公正性およびインクルージョンの課題と結びつける機会を提





センターの刊行物、資料、およびプレゼンテーション

OISTコミュニティのためのリソース・文献

C-Hub 「Spotlight」 ニュースレター



https://groups.oist.jp/c-hub/c-hub-spotlight-newsletter-archive

2023 年 1 月に創刊して以来、これまでに 4 回にわたり、学内外に向けて以下のテーマについてニュースレターを配信 してきました。

- ・ 第1号: インクルーシブ・リーダーシップ
- ・ 第2号:効果的なコミュニケーション
- 第3号:ウェルビーイング
- ・ 第 4 号: インクルーシブ・メンターシップ

C-Hub参考/成功事例の文献及び資料

教育とメンタリングに関する資料





多様性、公正性、インクルージョン





生産的でインクルーシブな研究環境を培うための成功事例

https://groups.oist.jp/c-hub/best-practices-resources-cultivating-productive-inclusive-research-environment



C-Hubライブラリー

https://groups.oist.jp/c-hub/library



学会でのプレゼンテーションと招待講演

学外での発表

帝京大学 2021 年 Scholarship of Teaching and Learning (仮称: 国際教育学習研究学会) バーチャル・シンポジウム 基 調講演「The Importance of SoTL in Creating More Inclusive Institutional Climates (よりインクルーシブな組織風土を創 るための教育学習研究の重要性)」(東京、K. Takayama)

2022年

米国生化学・分子生物学会 基調講演「Creating an Inclusive Learning Environment (インクルーシブな学習環境づくり)」 (K. Takavama)

京都大学 招待講演「包括的で生産的なアカデミック環境を創る:大学の未来のための挑戦的機会 | (K. Takayama)

教育開発国際コンソーシアム大会 登壇者「Embodied Stories: Human-Centered Sustainable Educational Development (体現型講話:人間を中心とした持続可能な教育開発」(R. Caldwell-O'Keefe 氏、A. Santucci 氏と共同)(デンマーク・

International Society for the Scholarship of Teaching and Learning (仮称: 国際教育学習研究学会) 大会 登壇者 [Embodying Perspectives: Exploring Epistemic Justice through Co-Creation in Participatory Performance Practice (体現型視野:参加型パフォーマンス実践における共創を通じた認識様熊公正の探求)|(A. Santucci 氏と共同) カナダ・ブリ ティッシュコロンビア州ケロウナ

2023年

東京工業大学科学技術創成研究院 招待講演 [Inclusive Leadership and Responsible Conduct of Research (インクルー シブなリーダーシップと責任ある研究活動)」(K. Takayama)

OIST学内発表

2021年

教授会 (9月)「C-Hub: A new professional development center at OIST (C-Hub:OIST の新しいプロフェッショナル・ デベロップメントセンター)」(K. Takayama)

広報ディビジョン(10 月)「The Center for Professional Development and Inclusive Excellence (C-Hub):A new comprehensive OIST のコミュニティに貢献する新しい総合センター)」(K. Takayama)

2022年

Student Council (大学院生の自治会)「Updates on C-Hub's programs and services for OIST students (C-Hubの OIST 学生向けプログラム・サービスに関する最新情報)」(K. Takayama)

Researchers Appreciation Month (研究者感謝月間) 「Cultivating the OIST Community (OIST におけるコミュニティの 育成) | (K. Takavama)

2023 年

大学院サイエンスチャレンジ「Diversity in Science」(K. Takayama)

連携、委員会、その他の活動 最優秀メンタリング教員賞

連携、委員会、その他の活動

OISTの各ディビジョンおよびプログラムとの連携

ディビジョン/セクション別リトリート

- 研究科オフィス
- 研究担当ディーンオフィス
- プロジェクト・プランニング&インプリメンテーションセクション(IT ディビジョン)
- 人事ディビジョン

OIST 研究員コミュニティ (ORC) との連携

OIST アラムナイ&アソシエイツネットワークとの連携および相談 大学院サイエンスチャレンジ・Diversity in Science ワークショップ

委員会活動

- 女性教員採用ワーキンググループ
- 男女共同参画委員会
- PRP 23 & 39 レビュー委員会(PRP= 学内規定)
- ・ 量子コース諮問委員会(仮称)

レビュー・編集協力

教育開発国際コンソーシアム大会レビュー委員会(仮称)(K. Takayama)

International Society for the Scholarship of Teaching and Learning (仮称: 国際教育学習研究学会) 学会誌「Teaching & Learning Inquiry (教育学習における探求)」(K. Takayama)



最優秀メンタリング教員賞

最優秀メンタリング教員賞では、インクルーシブなメンタリ 本賞は教員が身をもって示した効果的なメンタリングの関係 ング(育成指導)がOISTの学生、ポスドク研究員、および 構築や、成果を出しやすくインクルーシブな研究環境を培う その他研究スタッフのプロフェッショナル・ディベロップメント ための継続的な努力へのコミットメントを称えるものです。 やキャリアアップにおいて果たす極めて重要な役割と、優れ 受賞者は毎年 OIST の教員リトリートで発表され、特注の たメンターが生涯にわたり与える影響を評価し、表彰します。 琉球ガラス製の表彰盾と公式の表彰状が贈られます。

受賞基準

C-Hub のインクルーシブ・メンタリング・シンポジウムの成果とメンタリングに関する研究から、メンターが効果的かつインクルー シブであることを実証する主な属性として、以下が挙げられます:

1. インクルーシブであり共感力の高いリーダーシップ

効果的なメンターは知的で共感力に支えられたリーダーシップを発揮し、誰もが成長し成功できるような、インクルーシ ブかつ公正で成果のだしやすい研究環境を支援・醸成します。最善策を自ら実践し、一人一人を尊重し、自身の成功・ 失敗の両方を含む経験を共有することで、指導を受ける相手(メンティー)がキャリアの発展における複数の可能性を 認識できるようにします。

2. 継続的なフィードバックと明確なコミュニケーションを通じた、指導を受ける人のエンパワーメント

メンタリングの関係性は、効果的で継続的な指導と建設的なフィードバックを通じて強化されます。効果的なメンターは 傾聴を基本姿勢とし、明確で透明性のあるコミュニケーションを提供・促進させます。期待、役割、および実践方法が 研究チームメンバー全員に対して明確に示され、メンター自身も自ら模範となるよう常日頃からコミットメントに即した行 動をします。

3. 個人およびプロフェッショナルとしての成長へのコミットメントと評価

インクルーシブなメンターシップ(育成指導関係)は、すべてのメンバーが帰属意識を持ち、自らのキャリアパスについ て自主性をもつことを可能にします。メンターによる、メンタリング対象者の個人的・専門的な成長とキャリア上の関心 事へのコミットメントは、指導を受ける相手の自信と主体性を育み、モチベーションを生み出し、生涯にわたるスキル開 発の支えとなります。

4. メンティー支援ネットワークの積極的な支持と強化

効果的なメンターは、キャリアの様々な段階にあるメンタリング対象者(メンティー)の多様なニーズに対応する複数の 支援ネットワークの必要性を認識しています。支援ネットワークの人々は成長を志す者にとって心強い味方であり、個人 的もしくは専門的な観点から人的つながりの糧となるよう、様々な関連分野での人脈、機会、および資源と結びつけて くれる役割を果たします。メンターは、メンタリング対象者が自らネットワークを築く支援をすることで、彼らの自立や、 主体的に機会を探し出す力、そして能動的にメンタリングコミュニティを拡大し、自分に合った価値を探し出す能力を養 う支援をします。

2022年最優秀メンタリング教員賞受賞者

パオラ・ラウリーノ 准教授(タンパク質工学・進化ユニット)

名誉褒状

山本雅 教授(細胞シグナルユニット) ゲイル・トリップ 教授 (発達神経生物学ユニット)

2022年度審查委員会

ベンジャミン・クリフトン (ポスドク研究員) マリア・アルヴェス・ドス・サントス (リサーチフェロー) エイミー・シェン(教授) ヤン・ズワーレン (大学院生) 田中 和正(准教授) タト・ムホトゥ (大学院生) (キャシー・タカヤマが投票権のない委員長を担当)

2022年度 最優秀メンタリング教員賞:表彰文(原文:英語)より パオラ・ラウリーノ 准教授(タンパク質工学・進化ユニット)

あなたを本賞に推薦し、それを支持するノミネーションの多 深く励ましを込めたフィードバックを与え、相談しやすさでもっ



さは、あなたのインクルーシブで魅力的な研究コミュニティで相手を迎え、指導する相手一人ずつの可能性を信じる心で 育成へのコミットメントを証明するものです。多くの人々があ 相手を力づけています。研究室の学生やポスドク研究員は、 なたの限りない熱意、歓迎の精神、大きな心ならびに卓越性 あなたが彼らに注ぐ関心と、気にかけてもらっていることで への徹底的なこだわりについて述べています。あなたは意義 生み出される、全員が活躍する力が湧いてくるような、暖か く豊かな環境に感謝しています。また、それぞれのメンバー が(研究以外の)次の道へ進もうと考慮しているときでも、彼 らの幸福や個人的・専門的成長に対しあなたがコミットし配 慮をしていたことを繰り返し述べています。あなたのメンター シップが及ぼす影響は OIST に留まらず、あなたの指導を受 けた人々は幅広い分野で成功に向けて多彩なキャリアを歩ん でいます。一人ひとりの成長や進歩がすぐに分かり、ダイナミッ クな交流が起こるインクルーシブな環境作りというあなたのメ ンタリングスタイルは、あなたのユニットの風土として浸透し ています。あるメンバーは次のとおり述べています: 「先生は、 メンバーがキャリアアップするための最善の方法を常に考え、 タンパク質工学と進化をさらに理解するという共通の目標を 達成するために、異なる背景を持つ者同士が助け合うことを 促進する研究室の雰囲気を作り出しています。そして、これ は彼女のリーダーシップによるものです。」

2023年最優秀メンタリング賞受賞者

フィリップ・フスニック 准教授(進化・細胞・共生の生物学ユニット)

名誉褒状

クリスティーヌ・ラスカム 教授(パイ共役ポリマーユニット)

2023年度審查委員会

ラクシュミプリヤ・スワミナサン (大学院生) ディラン・ブラウン (ポスドク研究員) イザベラ・ステファニア・ポレブスカ (大学院生) パオラ・ラウリーノ(准教授) ヌルハナニ・ビンティ・ラザリ(ポスドク研究員) (キャシー・タカヤマが投票権のない委員長を担当)

2023年度 最優秀メンタリング教員賞:表彰文(原文:英語)より フィリップ・フスニック 准教授(進化・細胞・共生の生物学ユニット)

あなたの寛大でインクルーシブなメンターシップ(育成指導 私たちの研究を支えている人々も含めて)に最良の環境を提 カ) は学生や研究員の間で明らかに共感を呼び、最優秀メ 供し、私たちの成長と成功を最大化させ、(中略) 科学キャ ンタリング教員賞にあなたを熱心かつ誠実に推薦しました。 リアのどの段階にいようとすべての人に公平に機会を与えよ 一人ひとりの可能性を引き出し、多様なキャリアパスへの関うと多大な努力を払ってくださっています。| 心を支えようとするあなたの意図的なアプローチは、チーム 全員が活躍し強い帰属意識を持つことを促しています。彼ら は、あなたが他のユニットと交流する機会を積極的に作り、 国内外の科学者と彼らをつなげることで、彼らの専門的な人 脈を確立させるよう支援してくれたことに大変感謝していま す。あなたの明朗なコミュニケーションと、解決策を模索す ることを奨励する姿勢は、チームメンバーから高く評価され ています。あなたの指導を受けた人は皆、あなたが個々の関 心や進捗に気を配っていること、そしてあなたの熱心なサポー トのおかげで彼らのモチベーションを高め自信を持ち続けて いることを強調しています。同時に、あなたがダイナミックで インクルーシブな環境を醸成するために、楽しむこととコミュ ニティである良さを重視している点を強調した推薦もありまし た。ある学生の次の言葉は、あなたのメンターシップの本質 を捉えていると言えるでしょう: 「先生は私の科学キャリアで 出会った中でも最もインクルーシブで共感力の高いリーダー の1人です。先生は常に敬意を払いながらすべての人(研究 に携わっているメンバーに限らず、肩書きで差別することなく



学外連携・参加状況 学外連携・参加状況

学外連携·参加状況

高等教育機関や関連組織の関心を集めています。C-Hubの へのインタビューを行った機関は以下のとおりです。 イベントに参加している機関、資料や連携について C-Hub に

C-Hub のプログラムと活動は日本国内、また海外においても 相談のあった機関、または私たちの取り組みについて C-Hub

日本の大学

- 京都大学
- 上智大学
- 東京工業大学
- 東京大学
- 東北大学
- 新潟大学
- 北海道大学
- · 室蘭工業大学
- メリーランド大学グローバルキャンパス

国外の大学

- ・ シンガポール国立大学
- ・ シンガポール社会科学大学
- ・ ハワイ大学ヒロ校
- ・ ブラウン大学
- ブリストル大学
- レズリー大学
- ・ メリーランド大学カレッジパーク
- ・ ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン
- ワシントン大学







プロフェッショナル・ディベロップメント&インクルーシブ・エクセレンスセンター (C-Hub) 〒904-0495 沖縄県国頭郡恩納村字谷茶1919-1 https://groups.oist.jp/c-hub C-Hub@oist.jp

